非現実の王国で　ヘンリー・ダーガーの謎

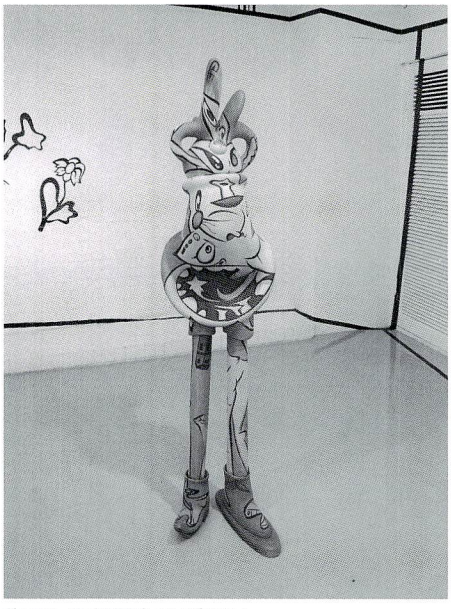
MOVIE
公開中

チンコのついた少女が動く。明らかになる？　その妄想力。

身寄りも友達もなく、ずっと病院の掃除夫として働き続けたヘンリー・ダーガー。もしかして、ダージャーと発音するのかもしれない、というほど、明らかになっていない彼が40年間に渡って、アパートの自室で15000ページに及ぶストーリーを描き続けていた。この作品は生前、若干の（といってもアパートの大家がほとんど）彼の周りの人たちによる回顧のドキュメンタリーだ。1973年に死にかけてやっと、その膨大な作品が大家によって発見され（燃やされなくて良かった）、死後、世界中で日の目をみることになるのだが、ダーガーの描いたストーリーは、チンコのついた少女たち「ヴィヴィアンガールズ」の戦争の物語。このドキュメンタリー作品ではその異常な妄想力、瀬戸際の創造力が垣間見られる。ダーガーの展覧会は関西に来なかったし画集も結構高いので公開が待たれていたところ。アーティストを志望する芸大生はこれを観ないとダメだ！

（中村悠介）

■非現実の王国で　ヘンリー・ダーガーの謎
■監督／ジェシカ・ユー
■京都みなみ会館
■公開中
■問い合わせ　075・661・3993（京都みなみ会館）



ギャラリー16／日野田崇（ヒノダタカシ）
［Have a little faith in me］2007
セラミック

Kyoto Art Map 2008 ～京都美定書～

EVENT
5.13～(Tue)

アートの都・京都のギャラリーを、充実のラインアップで一度に「ご試食」。

京都は美術系大学が多く、アーティストの卵がうようよいる日本、いや世界に例を見ない創作の街。今はワールドネームのアーティスト様もここから多数羽ばたいた。それを孵化させたのが、圧倒的な数と密度を誇る京都のギャラリーだ。多くはレンタルギャラリーながら、これが単なる展示スペースに非ず。オーナーたちのアートへの審美眼や熱意が若き作家に与える精神的な支えの大きさは計り知れない。

「Kyoto Art Map 2008 ～京都美定書～」は、そんな画廊の心意気を示す恒例のイベント。有志13軒のギャラリーが参加して一押しアーティストを紹介するものだ。推薦する作家のラインアップを見ていると、京都のギャラリーが単なるスペースではなく、それ自体表現と主張を持った場所だと感じられる。

アートがプチバブルの様相を呈している東京とはいろんな意味で違う、京都だけの創作のディープさ、独自性を感じていただきたい。

（沢田眉香子）

■「Kyoto Art Map 2008 ～京都美定書～」
■ 5.13（Tue）～5.25（Sun）
■ 参加ギャラリー
アートスペース虹・ヴォイスギャラリーpfs/w・ギャラリーアーティスロング・ギャラリーギャラリー・ギャラリー恵風・ギャラリー16・ギャラリーすずき・ギャラリーなかむら・ギャラリーはねうさぎ・ギャラリーマロニエ・同時代ギャラリー・ニュートロン・立体ギャラリー射手座
■ 問い合わせ075・211・2985（事務局／ヴォイスギャラリーpfs/w）

Kyoto Car-Moratorium ～京都人のクルマ知らず～

13th Lap to go

渋滞知らずの「抜け道」エキスパート！

最近、友人宅前の道に他府県ナンバーのクルマがよく通るようになったという。ナビの高性能化やVICS（渋滞情報の提供）システムの普及率上昇によって、京都特有の細道が渋滞時の「抜け道」として使われるようになったらしい。

我々の世代は「渋滞抜け道マップ」という本を思い出すが、本来「抜け道」ってものは、渋滞に行き当たる度に穴があくほど地図を眺めながらルートを検索し、何度も繰り返し走って習得したものだ。

そして自分だけの「抜け道」を、自慢げに「裏ワザの伝授」と称して仲間と共有するのが楽しかった。時には、最新カーナビでさえも予測できない「信号が赤から青へ変わるタイミング」まで読み切り、スマートに抜けていくのが「抜け道」の醍醐味なんである。その時の気分は、伝説のレーサー、A・セナが予選に失敗し、不本意な16番手スタートからごぼう抜き、オープニングラップでトップに立ってグランドスタンドを通過！　てな、まさしく「ライバルを出し抜く！」爽快感に似ていた。しかし、最新カーナビで誘導された「抜け道」にはそんな気分になることが少ない。

GWが始まると渋滞も酷いだろうが、自分だけの「抜け道」で偶然見つけたカフェのソファに腰を据え、地図を片手に頭の中でリルートする。そんな「余裕と発見」を兼ね備えたエクスカーション（小旅行）を楽しむのも、連休のクルマの楽しみ方の一つである。

中島 崇（なかじまたかし）

'68年生。自称「クルマのソムリエ」。創業昭和38年、北区は紫野の自動車屋・（株）中島商会の二代目社長にして「安くていい車」を探すスペシャリスト。かつて自動車オークションの取引で2000万円をドブに捨て、大失敗の連続から学んだノウハウをまとめた無料小冊子「その車に手を出すな！」も好評。中島流「車道家元」を目指す京都人。